

## A. 天橋立絵画作品中の松並木表現について

### \* はじめに

1. 天橋立における松並木植生の、歴史的実態を知る手がかりとして、本表のとりまとめを行った。
2. 本表では、天橋立図が網羅的に取り扱われてれている、下記2図書掲載の絵画作品45点を分析対象とした。
  - A 『日本三景展』図録(日本三景展実行委員会編集・発行 2005)
  - B 『智恩寺の文化財』(若杉準治監修 智恩寺発行 1999)
3. 表項目中の制作年代及び備考欄に記載した内容の一部については、上記図書の解説文を参考にした。また同様に、平成17年9月23日開催の日本三景展シンポジウム内での発言および、当館で開催した同年10月1日(講師:花園大学 福島恒徳氏)、10月29日(講師:京都文化博物館 野口剛氏)の講演内容を参考にした。
4. 表は概ね制作年代順になっている。また、網掛けの有無は表現参照の可否を提案している。
5. 表現の参照が可能と考える絵画作品については末尾に付図を付した。

### \* 参照に際しての留意点

- ・写真や測量図とは異なり、参照可とした真景図でも、絵画表現そのままを当時の実態とすることは困難であり、読み取れる情報の選択が必要である。
- ・それぞれの橋立図には描かれた主題や主眼がある。そのため全体としては真景に近くても、細部表現まですべてが正確ではない。
- ・個別松の枝振りや個性については、典型パターンを配列する場合もあり留意を要する。

### 【凡例】

#### 類型について

- w: 西方向から見た景観。概ね大内峠方面よりの眺望。  
 e: 東方向から見た景観。概ね栗田半島方面よりの眺望。  
 n: 北方向から見た景観。概ね成相寺・笠松方面よりの眺望。  
 s: 南方向から見た景観。概ね普甲峠方面よりの眺望。  
 ne: 北東方向から見た景観。  
 d: 縦型の画面。なお北方向からと南方向からの景観が有る。

#### 松並木表現の分類内容について

- : 概ね参照可。(実景に近い風景が描かれているもの。作者が現地を実見しているもの。)  
 ○: 考証の上、参照可(総体として実景を踏まえて描かれるが、考証が必要なもの。作者が現地を実見しているか、あるいはその可能性が高いもの。)  
 : 参照不可(一定実景が踏まえているが、手本となる構図を元にして描かれたもの。作者が現地を実見したかは判断できないもの。)  
 : 参照不可(一定実景が踏まえているが、デフォルメされて実景とは遠いもの。作者が現地を実見したかは判断できないもの。)  
 x: 参照不可(実景が踏まえていないもの。作者が現地を実見せず描かれたとみられるもの。)

制作年代は世紀(西暦)で記述した。製作年の明らかなものは備考に記載した。

# 絵画作品における天橋立の松並木表現分類表

付図番号	類型	分類	制作年代(世紀)	三景図録番号	智恩寺図録番号	作品名	作者	所蔵者	備考
	w	x	14	21	1	慕帰絵 第九巻	藤原隆昌	西本願寺	観応2年(1351)
1	e	○	16	参	2	天橋立図	雪舟	京都国立博物館	文亀元年(1501)頃制作。全体の構図は各地点のスケッチを元に再構成されたと推測され、一地点からの写生図ではない。松並木については松の粗密については参照可能と考えられる。ただし個別松の枝振り・高さなどは、地点毎に縮尺の異同が有る。
	e		16	24	3	成相寺参詣曼荼羅		成相寺	
2	e	○	16	29	4	天橋立・須磨図屏風			智恩寺境内に鉄湯船が表現される。松並木の粗密表現有り。現状を一定踏まえているか。ただし智恩寺門前の針葉樹は後補の可能性有り。
	e		16	30	5	天橋立・富士三保松原図屏風			強くx。
	w		16	26		九世戸龍燈図扇面		奈良国立博物館	建仁寺常庵龍崇(賛)
	e		17	33		巖島・天橋立図屏風			地形についてはデフォルメされているが、天橋立と智恩寺境内の植生が描き分けられている点は注目できる。
	e		17	34		巖島・天橋立図屏風			
	e		17	39		天橋立・住吉社図屏風			41と構図類似：半島の形・塔の位置
	e		17	41	12	天橋立図屏風		智恩寺	
3	n		17	71	14	天橋立丹後図画冊	狩野探幽		写生に堪能・意欲的であった探幽(1602~74)の成相寺付近からのスケッチ。各松の枝振りは描かれないが、粗密を知る手がかりとできる。
	e		17		6	巖島・天橋立図屏風		南蛮美術館	
	e		17		7	巖島・和歌浦図屏風		和歌山県立博物館	
	e		17		9	巖島・天橋立図(屏風)		サントリー美術館	
	e		17		10	巖島・天橋立図(屏風)		王舎城美術寶物館	
	e		17・18	40		天橋立・和歌浦図屏風		佐野美術館	智恩寺塔六角形
	e		17・18		8	天の橋立・和歌浦図(屏風)		大倉文化財団	
	e		17・18		11	天橋立図(屏風)		東京富士美術館	
	e		17・18		13	名所図(屏風)		石川県立美術館	
	e		18	55		松島・天橋立図扇	鶴沢探索	東京国立博物館	

付図番号	類型	分類	制作年代(世紀)	三景図録番号	智恩寺図録番号	作品名	作者	所蔵者	備考
	e		18	72		天橋立図(眼鏡絵)	円山応挙		
	e		18	93		丹後国天橋立図	亡名子	宮内庁書陵部	享保11年(1726)
	e	x	18		15	与謝大絵図		成相寺	
	n		18	80		五畿七道図帖・山陰奇勝之図 丹後天橋立	淵上旭江	岡山県立美術館	寛政8年(1796)。59と構図同じ
4	e	○	18・19		18	天橋立図	松翁斎	智恩寺	全体としては単調であるが、智恩寺境内の様子が詳しく描かれている。享保11年の丹後国天橋立図を踏まえているため、18世紀半ば以降の作品と考えられる。植生表現の差異は、相対的な密度を表現しているとみられる。
	e	x	19	46		天橋立図襖	土佐光文	宮内庁京都事務所	安政2年(1855)
	e	x	19	50		二の丸御殿大奥対面所 入側	狩野養信	東博	天保5年(1834)
	e		19	62		天橋立・松原図屏風	狩野永岳		智恩寺塔無し。詳細描写無しx。
	n		19	59		天橋立真景図屏風	淵上旭江	大津市歴史博物館	寛政12年(1800)。海保青陵賛有り
5	n		19	73		天橋立真景図	島田雅喬	智恩寺	跋に三井高就が天保14年(1843)に訪れた天橋立に感動し、雅喬(1808~81)を現地に派遣して描かせたことが記される。遠望すると見えないはずの智恩寺境内の様子が克明に描かれるなど遠近表現に加工はある(『日本三景展』No.73解説)。松並木の表現はやや単調であるが、橋立明神付近に松以外の広葉樹とみられる樹木や下草が表現されている。また小天橋が成長しつつある様子が描か
	n	x	19	113		大日本三景図	玄々堂	舞鶴市郷土資料館	
	n	x	19	117		大日本三景之内	有山定次郎	萩美術館・浦上記念	明治23年(1890)
	w		19	6		天橋立図胴懸		占出山保存会	天保2年(1831)
	w		19	61		天橋立・富士三保松原図屏風	横山華山	千葉市美術館	文政5年(1822)
	w	x	19	95		日本三景 天橋立	歌川豊広	舞鶴市郷土資料館	文政年間(1818~30)
	w	x	19	114		日本三勝景	岡田春燈斎	舞鶴市郷土資料館	
	s	x	19	96		諸国名所記 丹後天橋立風景	歌川広重	舞鶴市郷土資料館	天保6~10(1835)
	d	x	19	2		日本三景図	上田公長		
	d	x	19	1		日本三景図	狩野養信		
	d	x	19	100		諸国名所百景 丹後天のはし立	二代歌川広重	舞鶴市郷土資料館	文久2(1862)
	d	x	19	3		日本三景図	山野峻峰斎		
	d	x	19	98		六十余州名所図絵 丹後 天橋立	歌川広重	東京国立博物館	嘉永6(1853)

付図番号	類型	分類	制作年代(世紀)	三景図録番号	智恩寺図録番号	作品名	作者	所蔵者	備考
	n	×	20	127		天橋立	岩澤重雄	府立総合資料館	昭和35年(1960)
	d	×	20	123		天橋図	小野竹喬		大正9年(1920)
	d	×	20	4		日本三景図	児玉希望		
	ne	×	20	118		宮津橋立名所図会	吉田初三郎	府立総合資料館	大正13年(1924)